

平成 24 年度九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修報告

附属南西島弧地震火山観測所・システム情報技術系

平野 舟一郎・山田 克己

1. 期間 平成 24 年 8 月 27 日（月）～ 平成 24 年 8 月 29 日（水）
2. 会場 国立大学法人佐賀大学農学部大講義室（本庄キャンパス）
3. 目的 九州地区国立大学法人等の教室系の技術専門職員相当の職にある者又は採用後 5 年以上の教室系の技術職員に対して、その職務遂行に必要な一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を修得させ、職員としての資質の向上を図る。
4. 研修内容
 - 8 月 27 日（月） オリエンテーション・開講式
講話：「技術職員の役割」 佐賀大学理事 中島 晃 氏
講義・演習：「伝える技術」 1 日目 株式会社フォーブレーション 稲好 智子 氏
 - 8 月 28 日（火） 講義・演習：「伝える技術」 2 日目 株式会社フォーブレーション 稲好 智子 氏
施設見学：佐賀大学 海洋エネルギー研究センター
 - 8 月 29 日（水） 講義：「職場におけるメンタルヘルス」 佐賀大学保健管理センター所長 佐藤 武 氏
講義：「研究室における環境安全管理」 佐賀大学環境安全衛生管理室長 市場 正良 氏

5. 研修報告

附属南西島弧地震火山観測所 平野 舟一郎

本研修であるが、前述の研修内容にもあるように、分野は多岐に渡り、そのどれもが大変興味深い内容であった。なかでも、「伝える技術」では、我々の仕事は 60%以上がコミュニケーションに関わる業務で成り立っている為、伝え方および聴き方の能力を向上させることが非常に重要であることを学んだ。

例えば、伝える側の技術として、Point（要点・概要・結論）→Reason（理由）→Example（例え）→Point（結論）の順に沿って話すことが有効であり、その際、内容を短く纏め具体化する、重要なポイントを強調する、専門用語に気を付ける（共通に共有している専門用語であるか）、話し方に緩急を付けるといった方法を活用すると、相手への負担を軽減することができ、より確実に話し手の意見を伝えることが可能である。さらに、聴く側も、心を傾けて話を聴く（傾聴）姿勢が大切である。具体的には、話し手に対するうなずき、または、あいづちの多用、言葉の反復や共感、質問を取り入れる等である。このように、両方の技術の向上により、お互いのコミュニケーションが深まり、円滑に業務を進めることが出来る。本講義を終え、自身を鑑みると、傾聴に於ける能力が不足していると感じた。そこで、今後の業務能力向上の為に、今回学んだ内容を積極的に活用しなければならないと、強く決意した次第であった。

システム情報技術系 山田 克己

今回の研修で一番心に残っていることは 2 日間にわたって行われた講義・演習「伝える技術」であった。様々な事例を学習し、すぐにそれらをまわりの方とコミュニケーションをとりながら実演したことにより普段何気なく行っている伝え方や教え方が、まだまだ不足がちなことを痛感した。伝え方については、PREP や YOU&I メッセージ等という言葉・方法を知った。今後の業務で生かせるよう活用していきたい。

また、二日目は海洋エネルギー研究センターでの海洋温度差発電について見学した。この発電について、私自身ほとんど知らなかったが 20℃の温度差で発電可能なことや、その副産物ともいえる海水淡水化・海洋からの稀少金属等の回収等といったことづくめの発電であることを知った。工業廃水や温泉地等で利用でき、日本の環境に適しているクリーンエネルギーであると感じ今後もっと普及することを願う。

今回の研修では、演習「伝える技術」や懇親会で、九州地区の各大学・高専の中堅技術職員の方との交流を深めることができ、とても有意義であった。今後も人とのつながりを大事にしていきたい。